



「AI時代にこそ育てたい“知性”」

にしお ゆたか
教務主任 西尾 豊

もう今から10年ほど前、担任していた5年生の児童に「Society5.0」について授業をしたことがあります。その当時から「AIに仕事を奪われるのではないか?」という議論はあり、それについて紹介した際、ある児童が「それならAIの開発をやめた方がいいんじゃない?」と言い、クラスで楽しい議論になったことを覚えています。

授業の中では「IoT」「ビッグデータ」「クラウド」などについても扱い、子どもたちは新鮮な驚きをもってその話を聞いている様子でしたが、今ではその技術は当たり前ものとなり、その当時には「あったらいいな」レベルだったものが、今、どんどん現実のものとなっています。

先に書いた「AIに仕事を奪われる」という話、当時は「単純労働が取って代わられる」と言われていましたが、生成AIが発達した今、「多くの知識を必要とする仕事の方がむしろ取って代わられる」などという話も出てきました。この10年間のAI関連の技術は飛躍的進歩を遂げましたが、その進歩は留まるところを知らないかのように、今この瞬間も進歩を続けており、その速度はさらに早くなっていくでしょう。

10年前の授業で子どもたちに伝えたことの多くは「過去のもの」になりましたが、当時伝えたことの中で今も同じ内容で伝えられると思っているのが、次のことです。

◆知能・・・目的に向かう道を探す能力

◆知性・・・目的を設定できる能力

「AIは人工“知能”です。目的に向かうための手助けはしてくれますが、目的そのものを作り出すことはできません。目的を設定できる能力である“知性”は、人間だけが持っているのです。」

今年度、リーディングDX事業に参画し、右のような学習サイクルを意識して、子どもたちが主体的に取り組む授業づくりを行っています。サイクルに示されている「課題の設定」は、上の「目的の設定」とほぼ同義で、人間にしかできないことであり、だからこそ子どもたちには、その力を大きく伸ばしてほしいと思います。

AIをはじめとする技術革新は、これからも私たちの生活を大きく変えていくでしょう。

その中で必要となるのは、知識だけではなく、主体的に問いを立て、自分の学びを形づくる力です。本校のリーディングDXの取り組みは、まさにその力を育てるものです。

これからも学校全体で力を合わせ、子どもたちにとって「未来につながる学び」を共につくっていきたいと思います。

